

会 報

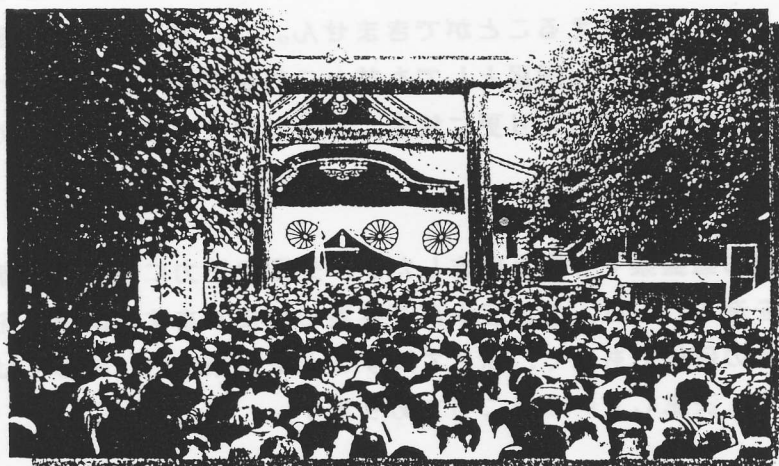
平成 15 年 5 月 1 日号

東部 ニューギニア 戦友会

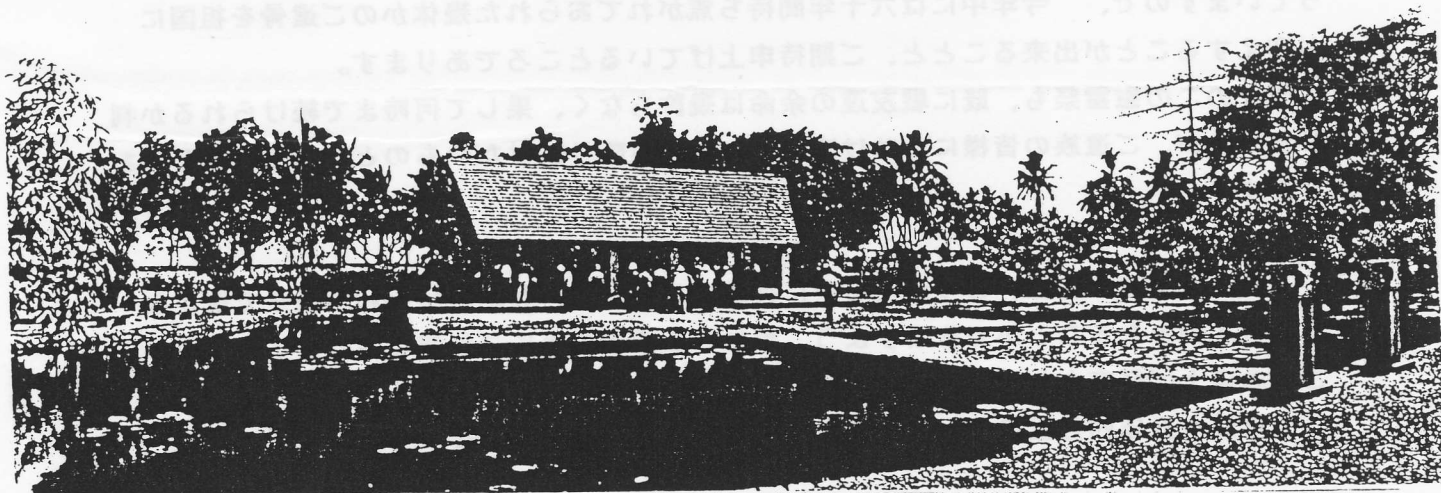
〒167-0073 世田谷区 砦 6-32-5

TEL-fax- 03-3416-6504

東部ニューギニア戦友会（参戦全部隊合同）主催
第十四回目の（隔年毎）合同慰霊祭は予定の四月五日
満朧の桜花を散らした春の荒天を、ものともせず遠路
九州、北海道より馳せ参じた九十余歳の老勇士たち、
関係ご遺族たちを含め二百六十余名が相集い靖国の神前において
厳肅裡に英霊の御霊をお慰め申し上げました。



例年 8月15日の靖国神社



バブア、ニューギニア、ウエイク の慰霊墓苑 （平成 3年時）

祭 文

神苑の桜花咲き匂う本日、先の大戦の中 東部ニューギニアの戦場で尊い一命を祖国に捧げられた、十三万ご英霊のご神前に二年振り、全国各地から生き残った戦友遺族相集い、第十四回目の東部ニューギニア陸海軍合同慰霊祭を行うに当り、参会者一同を代表し謹んで祭文を奏上致します。

思えば あの戦争から既に六十年以上を過ぎましたが、私共にとってあのモレスビー作戦から最後の激撃作戦に至る、満三年余の長期間、一貫して人間の堪えうる限度を遥かに超える最悪の条件下での作戦は、まさに昨日か一昨日のことであり、決して忘れることは出来ません。

特にこの間、十三万にも上る戦友が勇戦敢闘、あるいは敵の砲爆撃下に、あるいはマラリヤ栄養失調などで空くも散華された事を思う時、今更のように肅然たる思いに駆られ新たな悲しみの込み上げてくることを抑えることができません。 この皆様の尊い犠牲と至誠奉公の精神は、わが国としても、わが国民としても益々これを顕揚し続けなければならないことであり、これを忘れたり軽視したり更に放棄したりしたときは、わが国の終りであると信じています。

この意味において、一昨年の慰霊祭でも申し上げましたが、外国の圧力に屈して、新たな国立の追悼平和祈念の施設を造ることは、二百五十萬ご英霊の鎮まります靖国神社を形骸化し、ご英霊を冒瀆する以外の何物でもなく、断じて許すことは出来ない、許してはならないと、これが粉碎阻止を強く決意しているところであります。

ご英霊の皆様、一昨年は二十一世紀第一年、昨年はモレスビーへの定期直行便の就航で幾組もの慰霊団が現地での慰霊を行いました。 今年もまた色々と現地慰霊が計画されていますが特に今年は、昨年新たに発見したボイキン地区のご遺骨収集も行われることになっていますので、 今年中には六十年間待ち焦がれておられた幾体かのご遺骨を祖国にお迎えすることが出来ることと、ご期待申上げているところであります。

我々のこの慰霊祭も、既に戦友達の余命は幾許もなく、果して何時まで続けられるか判りませんが、ご遺族の皆様にお助け頂いて、命ある限り続けたいものと心から念願しております。

十三萬ご英霊の皆様、どうか安らかに神鎮まりまして、わが国が平和で安全で豊かな真の日本国となることができますよう、更に ご遺族の上にご加護を賜りますよう心からご祈念申し上げ祭文とします。

平成十五年四月五日 東部ニューギニア戦友会 会長 堀 江 正 夫

祭 文

本日、茲に東部ニューギニア戦友会の生存者、及び関係遺族の皆様による合同慰霊祭が、厳かに執り行なわれるに当たり、戦没者英霊の御霊に謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

私達の父森本正男は、大阪千日前で呉服商を営んで居りましたが、昭和十八年四月、身重の母と二歳の兄を残し丹波篠山に応召しました。五月十一日、編成された第五十四兵站地区隊は、広島宇品より出港、マニラを経由し六月パラオ島に停泊。パラオ島待機中の六月二十三日、妻京子無事誕生。戦地からの葉書に、「京子とは良い名だ」との便りが最期となりました。父は昭和十九年十月三日アイタペ州、マリンNo.1で戦死しましたが、戦死公報が疎開先の徳島に届いたのは四年後の昭和二十三年になってからでした。

戦後、全国各地に慰霊塔が建立されはじめ、昭和三十三年、私達の徳島にも、市内を一望する眉山山頂にパゴダが建てられました。見あげればいつもパゴダがあり、パゴダは切々と語りかけてきます。父の声、父の匂い、父の温もりを追い求め、父への想いが身体中を駆けめぐり心が晴れることのない日々でした。「雨の日、曇りの日、晴天の日のパゴダは哀し・・・」という母の詩の書き出しを見て、辛い想いを誰に語ることも出来ず全てを心に封印し、毎夜お念仏を唱え読経していた母も、私と同じだったのです。小学生の頃の私の作文はいつも「私のお父さんはニューギニアで戦死しました。大きくなったら必ずお父さんの死んだニューギニアへ行きます。」という文章が挿入してありました。それは母の気持ちの代弁だったのかもしれませんが。二年前、八十八才で亡くなった母の四十九日から突然ニューギニア行き話が進んでいきました。二十年近く床に就き身動き出来なかった母が霊となり身軽くなって、あの方、この方を動かし、私を導いてくれたのでしょうか。私達は遺骨を胸に抱き、その年の八月、パプアニューギニアへ向かいました。関空からポートモレスビーへ、更にマダン経由でウエワクへ。ウエワクからは車で、アイタペに近いマルジップ村を目指しました。少しの雨でたちまち道が川となり行く手を阻みます。海沿いのマルジップ村で、さらに南の山マリンから流れ来る、ニワトリ川下流で、それぞれ、村人たちに囲まれて慰霊をしました。その河原で不思議な光景に出会いました。読経を終え、大阪の白石様からお預かりした、折り鶴を流した時、河原の小石の間から、数ミリ程の子蟹が幾百幾千、湧水のように噴き出し、緩やかに帯状となってニワトリ川へと流れ出たのです。私達は背筋を霊気が走るような衝撃を感じました。

ニューギニアは余りにも悲惨な戦場でした。後方からの補給は途絶え、弾なく、一粒の米もなく、飢餓状態となって、草根を食べ、雨水で喉を潤し、マラリアに冒されながら、なお、祖国の繁栄を念じ、家族の安全を願い、精魂の限りを尽くした英霊の皆さん、さぞご無念であったろうと存じます。その尊い御志しは、長く後世に伝わり、皆様のお陰で日本は戦後五十八年の長きに亘り平和が続き、経済大国にもなりました。遺児も戦後苦難の時期もありましたが還暦を迎えました。この間、英霊の皆様のごことは片時も忘れたことはありません。「お父さんは、お国の御為に死す、お前はお母さんの言う事をよく守り、正しい強い人間になってくれ、お母さんに十分孝養を尽くしてくれ、祖先に感謝し、御祭りをよくしてくれ」と故郷をあとにした父。あなたの遺書を大切に、父の子であることを誇らしく自信を持って生きてきました。お父さんありがとう。最期に、父と同じマリンでご主人を亡くされた、白石ひろみ様の詩を代読し御慰霊申し上げます。

『ニワトリ川 君に届けとハーモニカ マリンに向けて故郷の歌』

どうか心安らかに眠り下さい。

平成十五年四月五日

遺族代表 徳島市 森 本 勝
京 子

ご挨拶

東部ニューギニア戦友会長

全国英霊にこたえる会 会長 堀江正夫

桜花爛漫の候、戦友及びご遺族の皆様には、如何お過しでしょうか。

本年もお陰様で、四月五日生憎の雨の中ではありましたが、神苑の馥郁たる桜花の下特に事務局長に格別のお骨折りを頂き、全国各地から263名もの戦友やご遺族が参列し第十四回目(編輯)の陸海軍合同慰霊祭を、厳肅かつ盛大に行なうことができました。本当に感謝に堪えません。特に遠路ご参列の皆様には心から敬意を表します。

東部ニューギニア戦友会としての当面の問題については、慰霊祭での祭文で申し上げましたので、お読み頂き、ご理解を賜るようお願い申し上げます。

実は私はこの数年来、総理などの靖国神社公式参拝実現を目的として、昭和五十一年に全国組織として結成された『英霊にこたえる会』の会長をしています関係から、祭文でも触れましたが、関連した二つの事項について以下説明させて頂きたいと思います。

第一は、本来の目的である総理の靖国神社公式参拝であります。

小泉総理は一昨年八月、総理としては実に十六年振りに参拝し、爾後も昨年は春の例大祭今年は一月と、毎年一回づつ参拝されましたが、小泉総理には年一回だけでなく、春秋の例大祭、八月十五日にもお詣り頂たい。小泉総理に続く次の総理にも是非とも参拝を続けてもらいたい。そして、ご英霊が心からお待ちになっている、長く途絶えている天皇陛下のご親拝を仰ぐ日の一日も早くなるようにしたい、と言うことであります。

第二は、一昨夏以来 官房長官の下で進めている、いわゆる国立の追悼平和記念施設の建設を絶対に阻止しなければならないと言う事です。

この建設の構想は、一昨年夏の総理の参拝直後、中 韓 両国の干渉に屈服して出された構想であり、靖国神社とは全く別個の無宗教の施設を作って、中 韓 両国の意図に副おうとするものです。

昨年末に出された、建設懇談会の答申による追悼の対象は、我が国のために散華された戦没者だけでなく、戦災で亡くなった人達を加えて更に、ご英霊が生命をかけて戦った敵国軍人の戦没者をも含めております、また、中 韓 両国が執拗に反対する、いわゆる(東京裁判史観に因る)戦犯者を含んでいるかどうかは、お詣りする人が自分で考えればよい、と逃げています。

この施設は戦没者追悼と言うよりは平和祈念が色濃く強調されておりますので靖国神社とは両立すると言っており、この施設で国の式典を求めているものです。

この構想に私共が強く反対する理由の主なものは次の通りです。

- 1、戦没者の慰霊顕彰をどの様にするかは、当然その国の国民が自ら決めることであって国際協調にこと寄せて、外国の干渉に屈し、これに迎合したものを造っても、真の追悼施設として国民の賛同は得られず、徒らに中 韓 両国の圧力に屈服した象徴を、後世にまで残すことになる。

2、戦没者慰霊顕彰は二百五十余万英霊が鎮まります靖国神社が名実共に中心施設である世界の多くの国は、その国の国教によって国が戦没者をお祀りしている。

現在、靖国神社が宗教法人である故を以て、他に国立のものを造るというのは本末転倒であり、靖国神社を、国が国民と一体となってお詣りできるよう、新たな道を開くべきものである。

3 慰霊顕彰対象者に戦災死亡者、更に敵国軍人まで加えるということは、国のために尊い生命を捧げられた戦没ご英霊を冒瀆する以外の何ものでもない。

4 この様な 平和祈念を強調した国立の施設を造ることは、戦後の間違った観念的平和主義の再現であり、世界の現状無視も甚だしく、徒に世界の嘲笑を招き国際的信頼を喪失する結果となることは、火を見るより明らかである。

5 仮にこの施設ができ、国の式典が行われることにでもなれば、天皇陛下の靖国神社ご親拝の道は永久に閉ざされることにもなり、靖国神社が形骸化することは免れない。

皆さん、どうか良くこれらの点をご理解頂き、今後の政府の動向に注目し、正真に国を憂い ご英霊のうえを思う私どもの運動に、ご協力をお願いしてやみません。

皆様のご健勝を心からお祈り申し上げますと共に、再来年もまた靖国神社で是非お会いしたいものと心から念じつつ御挨拶を終わります。

(四月九日記)



推薦 新刊書

戦争 『虚構と真実』

大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家

元20師団79聯隊(朝部隊)

尾 川 正 二 著 光人社 刊

一兵士としてニューギニア最前線で戦った自らの実体験を踏まえて、世上に流布、既成事実と化している『戦争の嘘』を、鋭い洞察力と精密な分析力で判りやすく説き明かす。捏造、歪曲された太平洋戦争の嘘、ジャーナリズムの、虚報を徹底的に検証する衝撃の戦争論。

靖国の英霊は戸惑っている

元十八軍通信聯隊 岡崎 弘之

今年一月十四日、小泉首相が靖国神社に参拝した事について、私が購読しているM紙は翌日の社説でこのように論評していた。

『思慮に欠ける行動である。過去の参拝の際に生じた混乱と外交上のマイナスを三たび起しかねない。中韓は戦没者の慰霊には反対していない。極東軍事裁判でA級戦犯となった人々が合祀されているからで、その靖国神社に参拝するのは、日本国首相の歴史認識にかかわると受け止められるからだ。それには政教分離の新たな追悼施設を早急に具体化させることだ』と。

また次頁の紙面では、各種団体の抗議声明などを載ていたが、その中の一つ。ある宗教団体は『靖国神社は、国家の戦争責任を回避する機能を果たす政治的意図で創設させた特異な宗教施設である』と。果してそうであろうか？

靖国神社は、明治維新以後に国のため命を捧げた人々を、遠い昔からの日本国伝統にのっとり、それらの人達を命（みこと）として崇て来た施設であって戦争責任を回避するためのものではない。

日本は、さきの大戦において敗北し、戦勝国による一方的な軍事裁判により戦争を指導したとされるA級戦犯者が処刑された。そのA級戦犯を靖国神社に合祀した事が特定外国により、また国内においても、戦後制定された日本国憲法の政教分離条項によって、首相の靖国参拝はその都度繰り返し抗議されてきた。

その抗議国中国は儒教の国であるが、靖国のような「忠霊廟」的施設はない、が、アヘン戦争以来の戦没者を追悼する人民英雄記念碑があって、中国を訪問した橋本、村山、の日本国首相はその碑に献花の礼を捧げている。

中国は毛沢東時代、自国民八千万人？が迫害されて亡くなったと言われているから忠霊廟建設は、やりたくても出来ないであろうが……。

ここで若し靖国神社からA級戦犯霊を除くとした場合、中韓の要人は訪日に際して靖国に詣でてくれるであろうか？、も疑問である。

靖国の近くには千鳥ガ淵戦没者墓苑がある。外地旧戦域より遺骨収集などで収骨されて帰還せしめたが、戦没者の氏名や関係遺族が不明の無名戦士を祭る施設である。靖国参拝を否とされる外国要人に、外交儀礼上弔問して頂くとすれば千鳥ガ淵墓苑でいいのではないか。政教分離の施設を新たに造る必要は無いと思う。

靖国神社は教義施設ではないのである。とにもかく、それが神社であれ仏閣であれ国のため殉じた人々を祭る奥津城に、その国の首相が詣でる事まかりならぬ、とはどう考えても理不尽な抗議と思える。

小泉首相が公約の”八月十五日かならず靖国参拝”から中韓の抗議をなるべく避けようとして他の日を選んだ心情は良く分かる気がするが、抗議国は八月十五日だろうが他の日であろうが、日本国首相の靖国神社参拝そのものに否なのである、

そこで、小泉首相に一国民、一ニューギニア生還者として願いたい事は、明治初年以来の靖国神社の来歴を披瀝し、日本国首相として靖国参拝は欠かす事が出来ないものであるスピリッツをしたための書翰を抗議国に表明して頂きたいと思う。

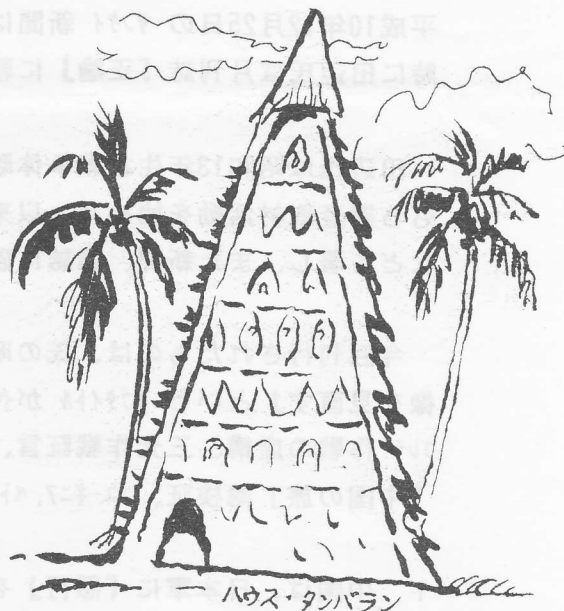
歴史認識が相違するので納得は得られないであろうが、主張すべきは主張しておくべきであろう。

おわりに……。私たち第十八軍通信隊（電信第三聯隊）が、昭和十七年十二月ニューブリテン島ラバウルに上陸してからのある日、内地からの日本週報の中に五線譜のついた短歌調の歌詞が載っていた、お玉杓子を解する戦友に、そのメロデーを尋ねると彼は即座に歌ってくれた。

靖国の宮にみたまは鎮まるも

おり折かえれ母の夢路に

その戦友も、それから二年後 ニューギニア山南のイオムで戦死、靖国に鎮まりましている。



ニューギニア戦跡案内

元第18軍司令部(猛7910部隊)
後 藤 友 作 (ごとう・ゆうさく)

ラエ(レイとも言う)

レイを起点にして周辺巡拝ガイド

マダン

ヤボブ (YABOB VILLAGE) 編

アムロン(AMURONN)ノナガダ(NAGDA)

アレキシスハーヘン(ALEXISHAFEN)

ウリンガン〜ハンサ方面

ウエワク

慰霊墓苑 ウエワク・メモリアルパーク

洋展台 ミッションヒル

ウオム岬 (CAPE WOM)

ボイキン (BOIKEN)

カラワップ (KARAWAP) 猛錦山軍司令部跡

ブーツ(BUT)飛行場跡

この文章をインターネットでご覧になりたい方がおられましたら、下記のURL (インターネット上の住所) をその方にお知らせ下さい。

<http://www.air-niugini.co.jp/>

この「ニューギニア戦跡案内」に関するお問い合わせは

ニューギニア航空日本支社 広報担当 info@air-niugini.co.jp / TEL : 03-5216-3555
までお寄せ下さい。

この文章の全部または一部を複写・複製・転載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。
これらの許諾については、上記問い合わせ先までご照会ください。
Copyright © 2003 rusaku Goto All rights reserved

☆☆☆ 黒崎薫氏（102歳）推薦記事。同期の畏友高橋剛太郎氏が『偕行』

15年 4月号に掲載された記事であるが著者、偕行社の了承を得て転載した。

検証 旧日本軍の『悪行』を読む

高橋剛太郎 56期

平成11年 3月28日、木本良次56期は静かに世を去った。彼は平成 9年10月「週刊朝日」のルポ記事「ニューギニアの日本軍の残虐」に憤激し、朝日に対し一年余りにわたり戦いを挑み志半ばにして病に斃れた。

この木本の抗議行動に対し側面から協力を惜しまなかったのが著者の田辺敏雄氏である。平成10年12月25日の『サカイ新聞』は、トップ記事で「朝日の報道は全くの虚構」と発表し、同時に田辺氏は月刊誌『正論』に朝日の捏造記事を粉碎する検証論文を掲載した。

田辺氏は昭和13年生れ戦争体験はない。昭和61年頃より日本軍の残虐行為報道に疑念をもち調査取材活動を始めた。以来、『（朝日）に貶められた現代史』『追跡平頂山事件』などを著し、また新聞、雑誌に硬質の評論を発表し、一貫して昭和史の探求に努めてきた。

今回刊行されたものは、氏の昭和史検証活動成果の総括的なレポートで『歪められた歴史像を見直す』というサブタイトルが付されている。主な内容は、東京裁判史観、731部隊の作戦の虚構、三光作戦証言、自筆供述書を残した3師団長、朝日新聞 本多記者の、「中国の旅」総検証、ニューギニア、ベトナム、ハイラルの日本軍などである、以下、読後の私見を述べる。

1、中国は、日本軍に『悪行』を心理宣伝戦の国家戦略の一つに位置付けている。心理宣伝戦に戦時も平時もない。即ち、誇大な被害数字の 에스カレート、荒唐無稽な事件の創出、長期勾留による証言の強制、戦跡保存、展示場由来記設置による国民の心理操作、観光客誘致 キャンペーン、在日 シンパ の獲得など何れも国家として、周到に用意された政索目標であり、これらは軍事、外交、経済戦略と密接に連携し、長期に亘り展開している。

国家が主導する心理宣伝戦に、個人または一団体が対抗するには明らかに限界があり、国家 レベルの対応が必要である。現在までわが国は、この問題について 対応は全く見られず無策である。

2、『悪行』に関する マスコミ、学者の虚構妄説は、反証によって”各個撃破”されている。元朝日新聞の本多勝一記者は、30年前に『中国の旅』に平頂山事件、万人坑、南京、三光政策等について レポートしている。本人は「中国側の発表をそのまま書いたもので、私には責任はない」と言いながら事実を断定している。驚くべき無定見である。

この本は現在、高校生の必読文献になっているが、日本人の歪んだ歴史認識を加速している罪は深い。

さらに終戦後、中国に抑留された4人の師団長は、長期に亘り思想改造から認罪運動へ、最後に自筆の供述書作成へ、と計画的に洗脳され漸く助命を果し帰国した。この供述書を全面的に肯定している学者もいるという。

果たして「悪行」は事実と確認されたものかどうか、また確かな根拠があつての報道であつたか疑わしいものが余にも多い。

しかも現実には「日本軍の残虐行為」がわが国の「負の遺産」として決定的な足枷になっている。

著者の究明検証により逐次真相が明らかになっているが、確かに存在する「悪行」は率直にこれを認めると共に、包括的検証よりも個々の事件の細部検証の積重ねが説得力があり効果的であろう。虚構は各個撃破により崩壊の道を辿っている。

たまたま、2月6日のサカイ新聞は、教科書の大手、山川出版社が、高校日本史教科書『詳説日本史』から「南京事件犠牲者40万人」を自主的に削除の申請をしたと報じた。

3、日本の安全は危険水域に入ったか。

著者は「ある事実が存在しなかった、という証明は難しい。存在の証明は点ですむが存在しないときは面の証明が必要だ」と検証の困難さを述べている。

戦友会または旧軍人個人を追って丹念に足で廻って証言の収集に努めた。しかし一部を除き旧軍人は、【上級者は評論家、下級者は無関心派】という。全般に当事者としての意識が稀薄で、調査協力を依頼しても無視されることが多いと嘆く。

また、著者が旧日本軍の編成、運用などの確かな軍事知識を蓄え、挙証の裏付としているのには驚きである。

著者は「日本の安全は危険水域に入った」と危惧する。歪んだ歴史を鑑にして、なおも反省と謝罪しながら半永久的に腰を屈め屈辱の道を歩み続けるのか。然らずというならば歴史像を見直し、我々自身の対応を変える以外に打開する道はないのではないか。

この本は日和見的な旧軍人の、不毛な精神風土に対する痛烈なメッセージと受け止めた。著者の真摯な憂国の至情に応える我々の姿勢は自ずから鮮明であろう。

この稿おわり。

検証 旧日本軍の『悪行』

現代史家 田辺敏雄 著 自由社 刊

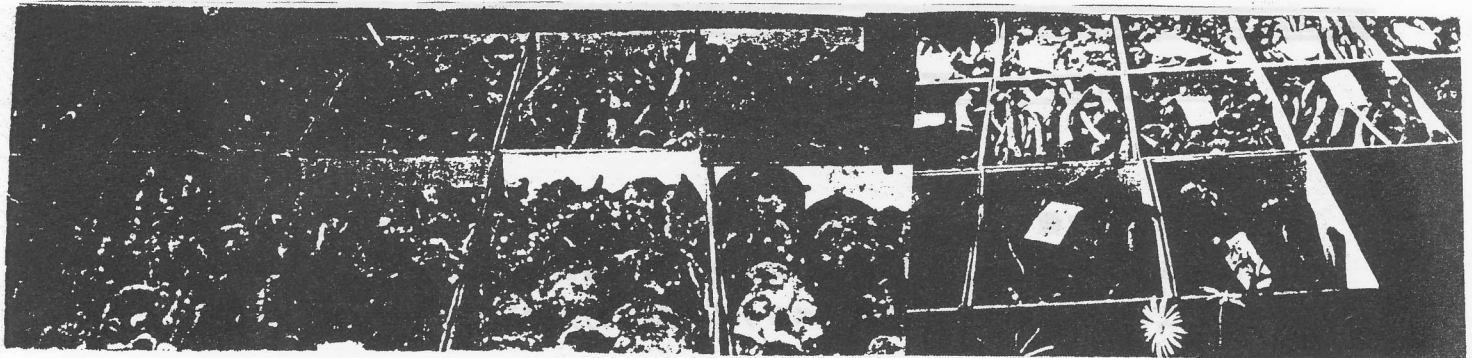
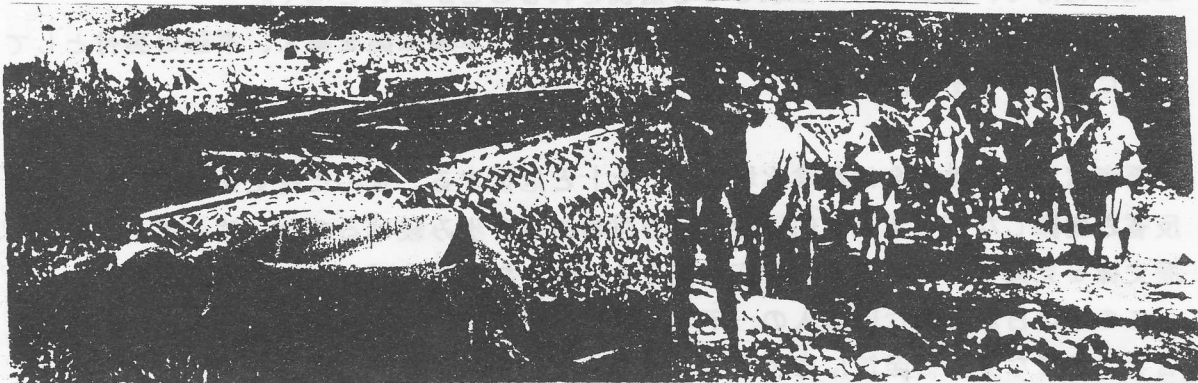
歪められた歴史像を見直す。東京裁判史観への道。三光作戦の検証。七三一部隊の虚構
中国人八千人強制連行を検証する。抑留生活と洗脳について。総検証「中国の旅」報道、
東部ニューギニアの究極の残虐。ベトナム 2000 万人餓死事件。メディアが誘導した
危険水域。ほか多数。

その後の 事 務 報 告

11月13日 ニューギニア現地に建立されてある慰霊碑、慰霊塔（個人対象は除外）など厚生労働省社会援護局より、現状の実態調査依頼があったことについては、皆様のご協力を頂きまして、会報14年10月号に掲載のように報告書を提出致しました。

11月18日 昨年 8月、堀江戦友会長の慰霊団と同行中の2遺族が、旧戦場 ポイソ 川 兵站病院跡地で、相当多数と思われる遺骨を発見したことは、会長自ら厚労省当局に報告すると同時に、早期収集の実現を要望してありましたところ、担当当局より来る12月 9日より19日までを期して、同省職員2名を派遣して ポイソ 該当地区の調査収骨を実施します。結果は後日お知らせします、とのことであります。

既報しましたが当該地ポイキンは昭和30年度、練習船大成丸による南東太平洋戦域の、第一回遺骨収集事業実施以来、この地区の収骨作業は7回実施しておりますが、当時の状況上、整然と埋葬された墓地ではなく、戦没者の遺体は多くの爆弾穴に埋葬されたとのことであります。その後、長い年月の経過と川の流れの変化で、地表面が洗い出されて露出したものと推測されますし、収骨未完地区と言える処であります。



昭和44年度（第8班）ポイソ 地区の収骨事業時

11月20日 厚労省援護企画課の要望に応じて、後藤事務局長は遺族酒光幸子氏同道して、調査収骨予定地 糸井ノ 地区の、戦中状況を説明に行きました。

1月24日 平成15年、恒例の年初賀詞交歓会兼、在京各部隊会代表世話人会を、市ヶ谷偕行社において開催した。

本日の出席者（順不同敬称略）

堀江 正夫	18軍司令部 戦友会々長		
中島 正	"	滋賀 秀正	海軍部隊会々長
後藤 友作	"	川田 浩二	"
松本与志彦	機関砲 29 中	和田 喜一	"
東風谷秀雄	野高砲 61 大	諸田 照吉	航空 22 飛大
伊東 基保	独工 8 聯	花輪 久夫	"
大岡 郁	独工 36 聯	岩谷 寿春	飛行 24 戦隊
安島 達夫	44 兵站隊	所澤 作治	砲部隊 星桜会
林 太郎	27 自動車廠	大山富士夫	"
酒光 幸子	建勤 51 遺族	島田 謙三	砲揚陸隊 遺族
水町 輝	朝20師団 79聯	野瀬 弘行	朝20師団 通信隊
仰木 元二	朝 輜重20聯	永峰 高雄	朝輜重 20 聯 遺族
星野 一雄	河41師団 司令部	中村 福一	河41師団 237聯
樋口 時造	河41師団 238聯	神戸 六雄	河41師団 239聯
住原 達郎	河 工兵 41 聯		
黒崎 薫	基51師団 102聯	小沼 忠徳 基	野砲-14 聯
山形 新一	基 工兵 51 聯	亀田 英二	- " 通信隊
大山 吉高	群馬ニューギン7会	青木 猛雄	- 国際航空旅行社長

出席 34 名

欠席 26 名

推薦 新刊書

『帝国陸軍の教育と機構』

ニューギニアの戦友 尾川正二 著 新風舎 刊

現役、招集に関係なく軍隊という特殊な世界に入ったその日から、誰もが体験した初年兵当時の隊内生活を、余すところ無くリアルに描写されているので微笑ましく思い出したり、不条理が論理になる軍隊の機構、戦時下の人間性、戦争史観などを、招集兵として軍隊に属しニューギニアで戦い死を超えて生還した著者が、足元と俯瞰から記した記録学術書。

平成14年度(自1~12月) 会計報告

平成15年 1月24日 東部ニューギニア戦友会

収入金額	科目	摘 要	支払金額
617,165,-	前期繰越金	平成13年度より繰越	
87,000,-	世話人新年会々費収入		
50,000,-	支援寄付金	(41会=3 棚橋幸二様=1 尾川正二様=1)	
112,-	雑収入	(預金利子)	
		支払い経費(内訳下記)	327,080,-
		期末在高(預金現金)	427,197,-
754,277,-	合 計		754,277,-

支払経費内訳

科目	支払金額	摘 要
会議費	2,070,-	新年世話人会、(席料食事代)
印刷費	17,500,-	会報 1, 諸資料(コピー紙代)
慰霊費	37,000,-	靖国神社、千島が淵墓苑 春秋例祭奉賛金 年賀初穂料 慰霊奉賛 7 件
通信費	33,960,-	地方世話人(遺族問い合わせ) 連絡切手ハガキ 電話料
発送費	76,550,-	会報、資料等の郵送費
支援金	80,000,-	高砂義勇兵と遺族訪日歓迎支援金
計	327,080,-	平成 15 度へ繰越金 ￥ 427,197,-

以上の通りご報告申し上げます。

平成15年 1月 24日

戦友会事務局長 後藤友作

2月10日 隔年ごとの恒例行事である、東部ニューギニア戦友会 陸、海、合同主催の慰霊祭案内は、前例どうり各部隊会世話人の各位と、グループ世話人には所属個人宛の伝達方を依頼し、その他の各位には一斉に案内状を発送して、合同慰霊祭開催を知らせた。

3月24日 慰霊祭実行委員達は、靖国神社に集合して祭典準備の、最終打ち合わせした。

4月 5日 咲き誇る満朶の桜、靖国神社での慰霊祭が予想外の荒天になってしまったが『ニューギニアの戦場で経験済みじゃよ』と許りに、老勇士(92歳 秋篠)が九州から馳せ参じたり、関係ご遺族を含め二百六十余名が参列した。

4月10日 パプアニューギニア国、首相マイケル ソマリ氏が太平洋、島サミット参加のため、十五年振りに来日することになった、5月14日夜憲政記念館において、歓迎レセプションを開催するという。

少年の日の ソマリ氏が、故柴田幸昌隊長(船舶工兵9聯隊中隊長、大尉)の駐留地住民、宣撫工作用日本語学校一?で薫陶を受けた、という縁で格別な親日家の首相である。

前回の公式訪日際は、柴田氏と再会の労を取次ぎ歓談し記念撮影した。

おわり。